

コロナ禍での 避難について 考えよう

問 安心安全課 ☎56-0611

未だ新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中ですが、災害は待ったなしでやってきます。コロナ禍の今、災害時にはどのような行動をすべきなのでしょうか。

新しい避難所開設訓練。

コロナ禍においては、今までの避難の考え方を見直し、感染症拡大防止に対応していく必要があります。その第一歩として、2020年11月15日、市内6小学校で地域の役員等が主体となり、感染症対策を踏まえた避難所開設訓練を行いました。



避難者の検温や健康チェックなどを組み入れた新しい受付対応



感染症防止の段ボール間仕切り等を活用し、必要な避難者スペースを確保

避難所開設訓練をやってみて。

参加者の感想（まちづくり協議会会長・自治会連合会会長・区長会議 近藤会長）

コロナ禍の中、私たちが中心となって避難所開設訓練を行いました。訓練は無事に終わることができましたが、災害発生時も慌てずに対応ができるように、今後も継続して訓練を実施して避難所開設・運営のスキルを身につけていく必要性を感じました。

また、災害が発生したときは避難所に行かなければならないと考えがちですが、感染防止の観点からも、在宅避難をはじめとする分散避難を考えなければなりません。

日頃から万全の備えをし、災害時でも「自宅が安全なら自宅で避難する」ことが必要だと感じました。



結局どうしたらいいの？

「避難」とは「難」を「避」け、安全を確保することであり、「避難所に行くこと」だけではありません。避難所に行くことで感染症のリスクが高まる可能性もあります。もちろん危険な場所にいる場合は、速やかに避難所に行くべきですが、自宅が安全なら在宅避難をしましょう。安全な場所に親戚や知り合いの家がある場合には、そちらに避難することも考えましょう。

次の順番で検討しましょう

①自宅が安全なら「在宅避難」



②親戚や知人宅への「縁故避難」



③「避難所への避難」



💡今、あなたにできることを考えよう！

日頃から食料や携帯トイレ、そして、マスクなどの感染対策用品の備蓄を進めるとともに、家族や近所の人と一緒に防災や避難について考え、いざというときに助け合えるような関係を築くことが大切です。

①一週間分の備蓄をしましょう

なんと、水の備蓄の目安は1人1日3リットルです！
QRコードを参考にぜひ家族で話し合ってみてください。



②あいさつをしましょう

みなさんは、知らない人と一週間過ごすことはできますか。なかなか、難しいと思います。しかし、親しい人だったらどうでしょうか。

避難生活を送る上では共助が必要になります。その時に大切になるのが地域、ご近所さんとの「つながり」です。そのためにもぜひあいさつをし、コミュニケーションをとって「つながり」を作り、深めていきましょう。